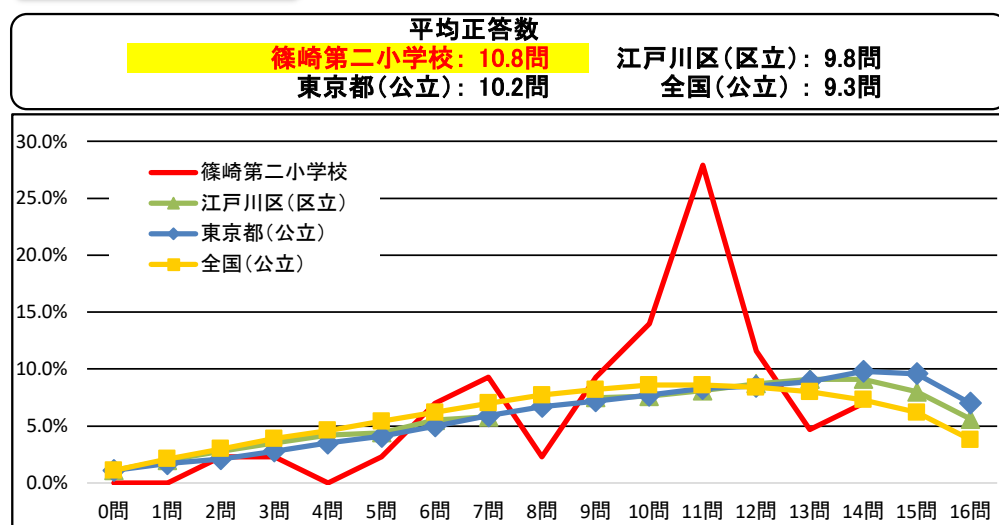


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】篠崎第二小学校

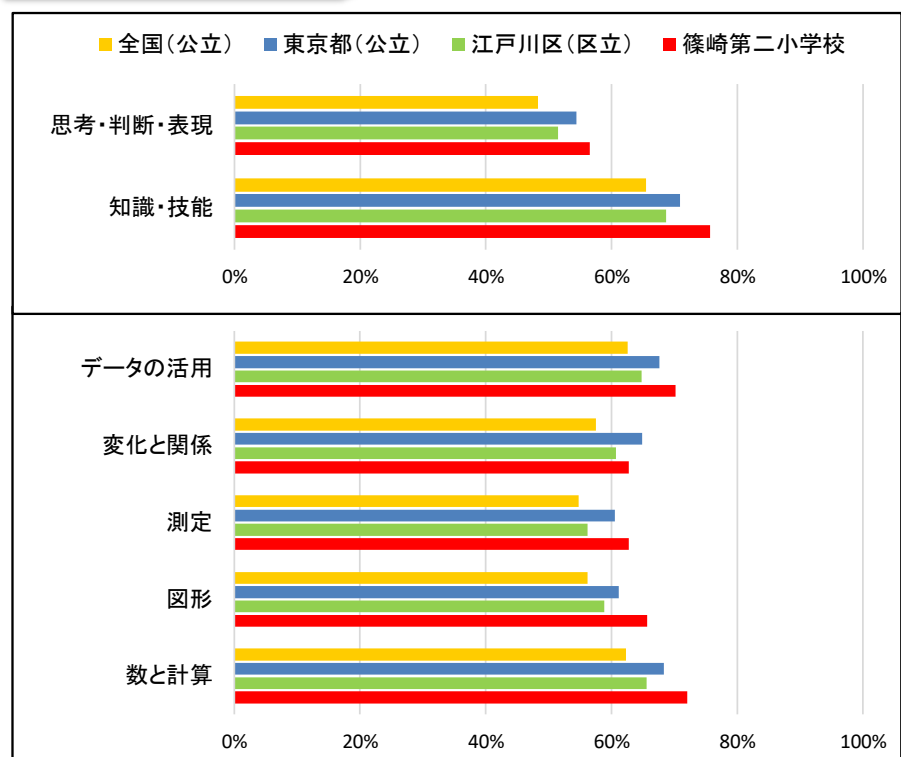
## 正答数分布



【平均正答率の差】

|            |     |
|------------|-----|
| 篠崎第二小学校    | 67% |
| 江戸川区(区立)   | 61% |
| 東京都(公立)    | 64% |
| 全国(公立)     | 58% |
| 都との差(ポイント) | 3.0 |

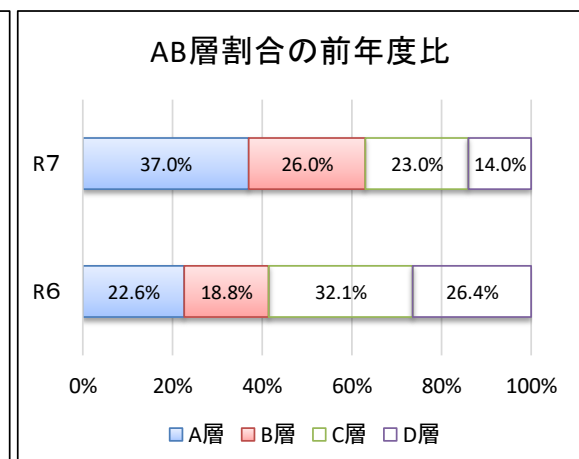
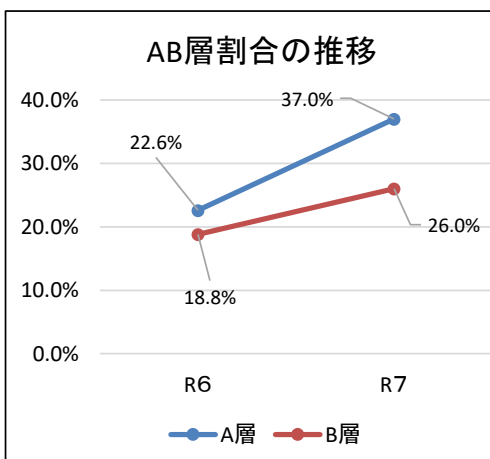
## 「領域別」の結果



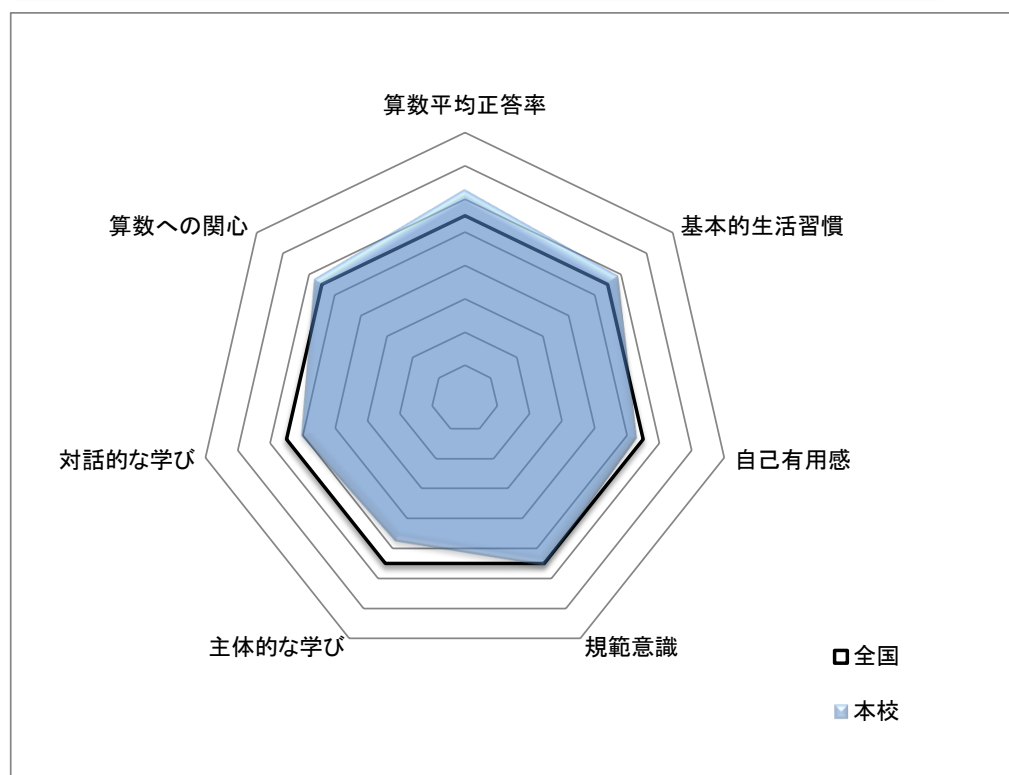
## 四分位における割合（都全体の四分位による）

| 算数       | 上位 ← 下位      |              |             |            |
|----------|--------------|--------------|-------------|------------|
|          | A層<br>14～16問 | B層<br>11～13問 | C層<br>7～10問 | D層<br>0～6問 |
| 篠崎第二小学校  | 37.0%        | 26.0%        | 23.0%       | 14.0%      |
| 江戸川区(区立) | 22.7%        | 25.9%        | 27.9%       | 23.5%      |
| 東京都(公立)  | 26.4%        | 25.7%        | 27.6%       | 20.3%      |
| 全国(公立)   | 17.3%        | 25.0%        | 31.4%       | 26.3%      |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



### 《チャートの特徴》

- ・全体の平均正答率が、東京都の平均を9ポイント上回り、基本的な生活習慣や規範意識についても全国平均を超えている。
- ・算数への関心は上回っているものの、対話的な学び、主体的な学びが都平均を下回っているため、主体的、対話的に学習に取り組める場面を授業に多く取り入れる必要がある。

### 《家庭・地域への働きかけ》

ベーシックドリル・全国学力・学習状況調査の結果を、面談等の機会を活用して保護者に伝え、課題を明らかにすることで家庭学習への啓発を行い、児童の家庭学習の習慣が定着するようにする。また、タブレット端末での学習「ドリルパーク」、「テストパーク」も活用し、児童の学習の成果や課題が家庭においても確認できることを伝えていく。

### 《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・A層、B層ともに割合が増えている。特にA層の増加が顕著である。
- ・割合としては上位層が増加傾向にあり、平均正答率においても都、区の正答率をわずかに上回っている。
- ・学習の領域で比較すると、「変化と関係」「測定」の領域が比較的正答率が低い傾向にある。
- ・「江戸川区算数科授業スタンダード」を活用した授業や、学習カルテの活用成果が表れてきていると考えられる。

### 《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- ・「江戸川区算数科スタンダード」に基づく授業を行う。
- ・校内で算数科のノート書き方を統一し、指導の統一を図る。
- ・習熟度別少人数指導において、特に「測定」の分野において、実際の量をイメージした上で数的処理ができるよう、具体物の観察や操作の場面を多く設定する。
- ・令和5年度に取り組んでいた校内研究のテーマである、「篠二話し合いスタンダード」を継続的に活用し、算数科においても対話的な学びができるようにする。
- ・基礎学力の保障
- ・各学年において特に不得意とする単元を明確にし、東京ベーシックドリル活用期間に、家庭学習や補習の時間にその単元の問題の復習に集中して取り組ませる。
- ・江戸川区算数科スタンダードに基づく授業を確実に行う。
- ・学習カルテを活用し、正答率の低い単元の問題に繰り返し取り組めるようにする。
- ・令和5年度に取り組んでいた校内研究のテーマである、「篠二話し合いスタンダード」に基づき、各学年の目標に応じた話し合い活動を行う。

### ・学習習慣の確立

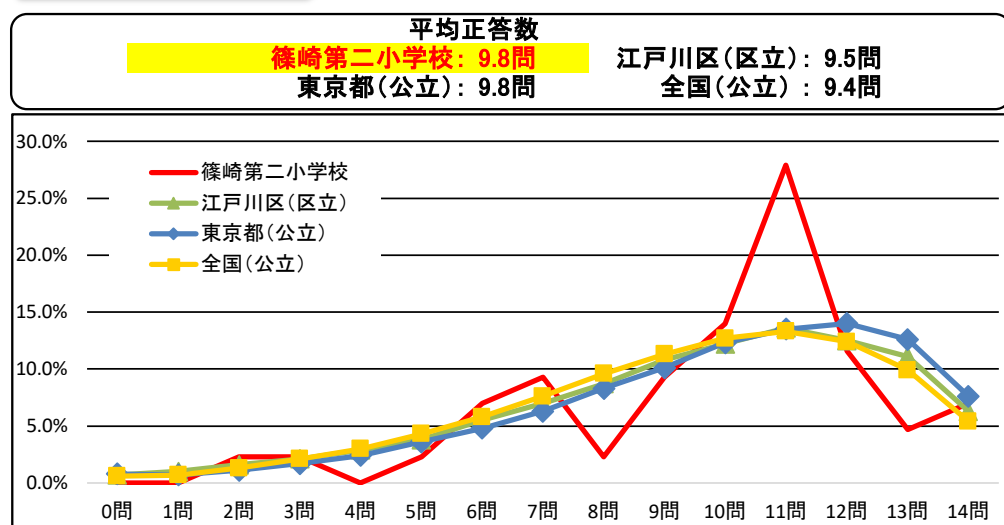
タブレット端末を用いて、ドリルパーク、テストパークを活用し、問題に繰り返し取り組めるようにする。対話的な学習を通して、児童と教師の関わりや、児童同士の意見の交流の場を多く設定する。主体的に課題を解決した経験や、分かりやすく伝えることができた経験を積み、算数を学習する意欲を継続させる。

### ・AB層の育成

学習カルテを活用し、児童一人一人の学習状況を明らかにする。その上で、正答率の低い問題に重点的に取り組ませることで、正答率の向上を図る。習熟度別少人数指導において、AB層には多くの問題数に取り組む機会や、発展的な問題「Teams算数プロジェクト」に取り組む機会を設け、さらに正答率を向上できるようにする。

# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 篠崎第二小学校

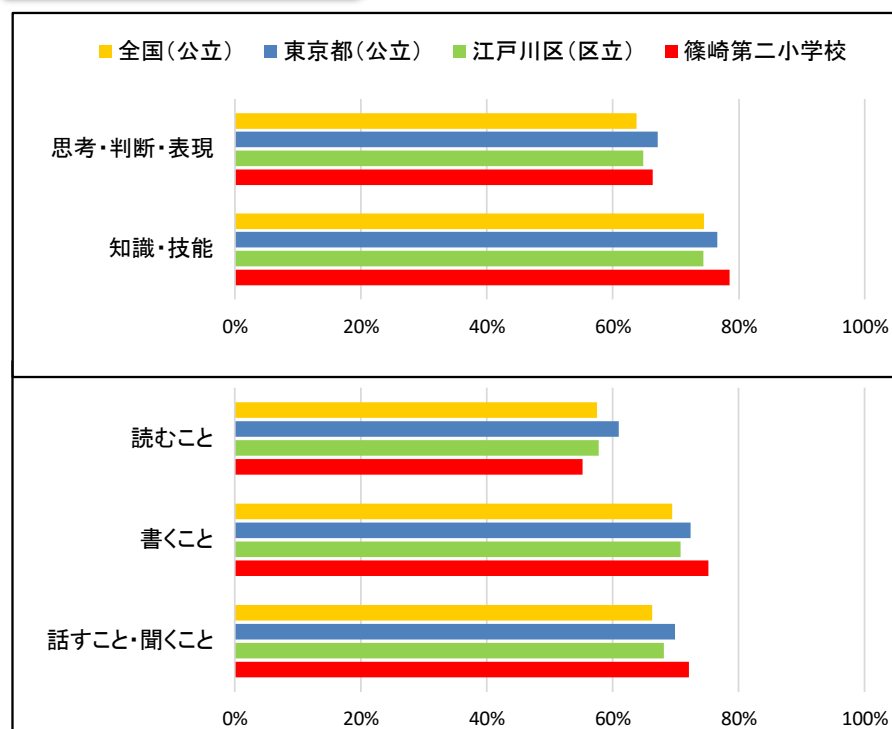
## 正答数分布



【平均正答率の差】

|            |       |
|------------|-------|
| 篠崎第二小学校    | 70%   |
| 江戸川区(区立)   | 68%   |
| 東京都(公立)    | 70%   |
| 全国(公立)     | 66.8% |
| 都との差(ポイント) | 0.0   |

## 「領域別」の結果

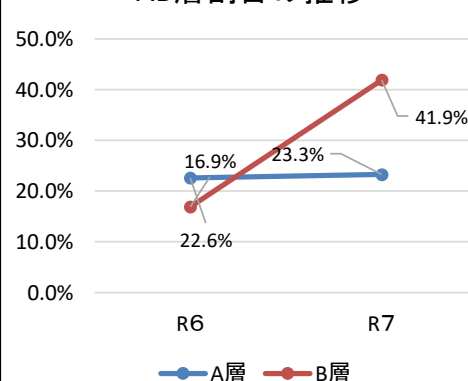


## 四分位における割合（都全体の四分位による）

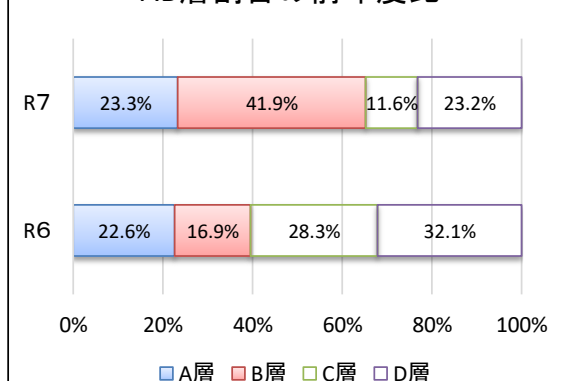
| 国語       | 上位 ← 下位      |              |            |            |
|----------|--------------|--------------|------------|------------|
|          | A層<br>12～14問 | B層<br>10～11問 | C層<br>8～9問 | D層<br>0～7問 |
| 篠崎第二小学校  | 23.3%        | 41.9%        | 11.6%      | 23.2%      |
| 江戸川区(区立) | 30.0%        | 25.8%        | 19.5%      | 24.7%      |
| 東京都(公立)  | 34.4%        | 25.8%        | 18.4%      | 21.4%      |
| 全国(公立)   | 27.7%        | 26.0%        | 20.9%      | 25.4%      |

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

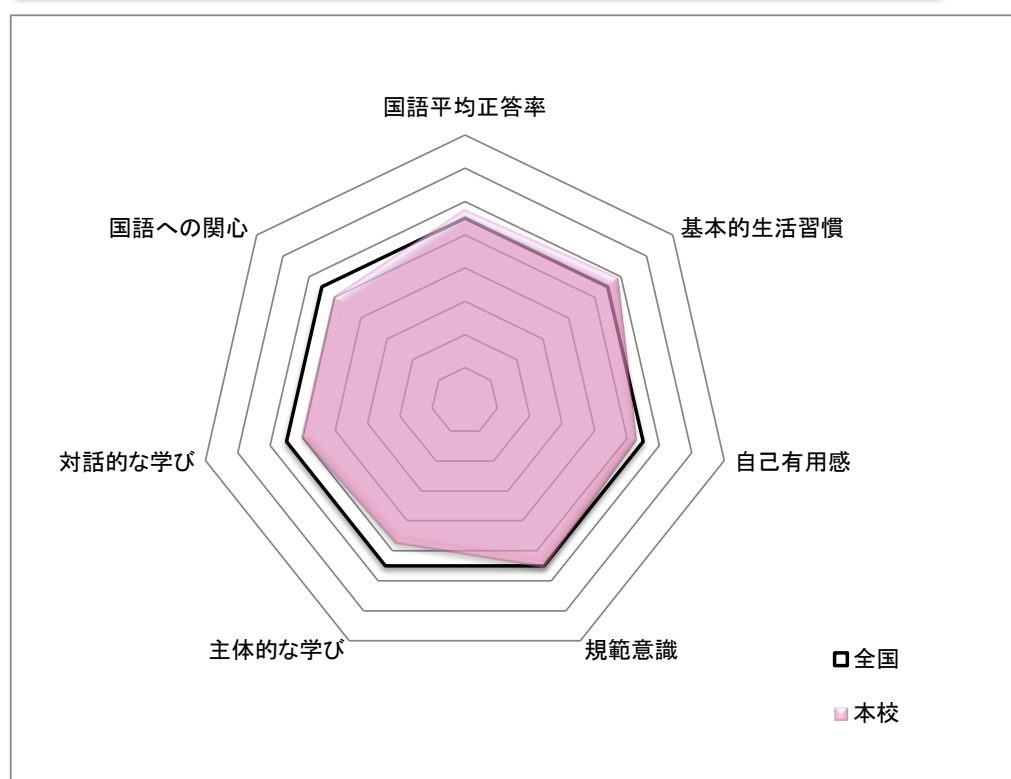
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- 平均正答率や、基本的な生活習慣・規範意識については全国平均を超えている。
- 国語への関心、対話的な学び、主体的な学びが、全て都平均を下回っているため、国語の学習に意欲的に取り組めるようにする必要がある。

《家庭・地域への働きかけ》

ベーシックドリル・全国学力・学習状況調査の結果を、面談等の機会を活用して保護者に伝え、課題を明らかにすることで家庭学習への啓発を行い、児童の家庭学習の習慣が定着するようにする。また、タブレット端末での学習「ドリルパーク」、「テストパーク」も活用し、児童の学習の成果や課題が家庭においても確認できることを伝えていく。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
- ・A層、B層ともに割合が増えている。特にB層の増加が顕著である。
- ・上位層が増加傾向にあり、平均正答率ではわずかに上回っているため、さらにA層の児童の増加を目指したい。
- ・「江戸川区国語授業スタンダード」や、校内研究で作成した「篠二話し合いスタンダード」を活用した授業を続けてきた結果が表れていると考えられる。

《学校の取組》

- ・教員の指導力向上
- 基礎・基本の定着と併せて、授業の導入や展開で児童の意欲を高める手立てや工夫を研究、共有し、取り入れていく。「江戸川区国語授業スタンダード」や、校内研究で作成した「篠二話し合いスタンダード」を活用し、各学年における話し合い活動の目標を示し、児童一人一人の話し合いの力を伸ばし、自分の考えをよりよいものにできるように全校で継続して指導している。
- また、主体的に学習に取り組むことができる手立てについてを校内研究の主題とすることで、児童が主体的に学習にのぞめるように授業改善を行っている。
- ・基礎学力の保障
- ・令和5年度に取り組んでいた校内研究のテーマである、「篠二話し合いスタンダード」を継続的に活用し、各学年において適した話し合いの目標を示す。目標達成に向けて児童一人一人の話し合いの力を伸ばし、自分の考えをよりよいものにできるようにする。
- ・江戸川区国語科スタンダードに基づく授業を行う。

・学習習慣の確立

- ・国語の学習だけに限らず、どの教科においても、学習感想やまとめを記入させて、自分の考えを文章で表す力をつける。
- ・読書科を計画的に行い、様々な図書に触れ合うことで、読んで、考えて、表現することに慣れさせる。
- ・4年生以上は、週に1回「よむYOMUワークシート」に取り組み、読解力向上を目指す。

・AB層の育成

調査の結果だけでなく、普段の学習においても特に「読むこと」の分野に課題があることを感じている。そこで、特に説明的な文章を読み取る力を高めるため、児童の実態を分析し、その対策をしている。実態としては、それぞれの問いにおいて、問われている主旨を理解していないこと、文章の段落において何が書かれているのか、概要を理解できていないことなどがみられる。そのため、問題文が長い場合は、問題文を区切って短い文として理解できるようにすることや、指示語が指している言葉が何を指しているのかを明確にして文章を読むことなどを重点的に指導している。